農業技術短報

№５２　２００１．１．１

三重県科学技術振興センター
農業技術センター

ホームページアドレス　http://www.mate.pref.mie.jp/marc/

＜所感＞
○○○○について　1
＜研究成果の紹介＞
○イチゴ新品種「サンチーゴ」の品種特性と栽培管理技術　2
○被覆尿素と局所施肥機による冬キャベツの全量基肥栽培　3
○極早生の甘ガキ新系統「早秋」の特性　4
○カキ「前川次郎」の予備枝設定における適切な切り戻し程度　5
○デジタルカメラを利用した野外での果色評価　6
○「カラ」の高糖度果実生産要因の解明　7
○法面植栽に向くｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｶﾊﾞｰﾌﾟﾗﾝﾂ苗生産における用土別の施肥法　8
○33年ぶりに発生を確認したコムギ縞萎縮病　9
○黒毛和種雌肥育牛の肥育後期における血中ビタミンＡ値の推定　10
○アマニ油脂肪酸カルシウムの飼料添加による鶏肉のα－リノレン酸強化　11
○特産肉用鶏「伊勢赤どり」の飼養管理技術　12
○ディスクペレッターを用いた鶏ふん堆肥のペレット化技術　13
○鶏ふんペレット用散布機の開発　14
○米の食糧安全保障機能などを活かした新たなﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ展開方向　15
○Ｗｅｂページ開設農業者が求めるインターネット農業情報　16

＜所　感＞

２１世紀の初頭にあたって

次長　　橘　尚明

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、農業技術センターの運営につき、平素から格別のご支援ご協力を賜り心からお礼申し上げます。本年は２１世紀という新しい年を迎えましたが、顧みますと当センターは、明治１０年に津市に開設された「三重県栽培試験場」を前身として、その後１２３年という長い歴史を礎に幾多の改変を経て現在に至ってまいりました。

明治の初め、先輩たちが夢みた科学的農業は、貧しさ・ひもじさからの脱出をめざした増産技術にはじまり、工業的効率アップを追求した選択的拡大の時代、さらには押し寄せる国際化の波に抗してコストダウンをねらった規模拡大と、常に「向上と拡大」指向を続けてきました。

その農業が今、多くの技術問題を抱え、とまどいの中にあります。例えば減反政策の下でいまだに技術的な出口が見えてこないこと。混住化のなかの経営問題や中山間の技術開発となれば、まだ緒についたばかりであり、また国際化が進み、海外農産物が大量に輸入されるなかで、技術的に可能なコストダウンはどこまでか、対抗すべき武器はどこにあるのか等課題は多くあります。一方、健康志向が進み、豊さや潤いを求める生活者に、機能性に富み、安全で多様な食べ物を提供する技術開発、環境保全型農業に関する技術もまだはじまって日が浅いと言わざるをえません。

農業技術も今、過去の延長ではない新しいアクセスが必要となってきています。技術にとって、過去の手法、守備範囲にこだわらない新しい戦術転換が必要となり、そのための果敢な挑戦が求められています。このような状況の中、過去の一世紀に何を学び、新たな世紀に何を贈ることができるのか、こうした温故知新という、ありふれて、しかも日頃忘れがちなことを、今一度振り返り、新たな世紀の発展に結びつける必要があります。農業技術センター研究員一同、これらのことを十分に認識し、本県農業の発展に努力して行きたいと考えておりますので、よろしくご指導ご鞭撻のほどをお願い致します。